

いっしょにもの転機を超えて

つくば市 岩見 早苗

小さくとも一歩一歩前に踏み出してきたことが今の自分に繋がっていると思います

産業カウンセラーに出会うまで

産業カウンセラーの資格を取得しようと思ったのは、30代の時でした。

私は、大学を卒業後、大学で事務職員として働き始め、今も同じ職場で働いています。入職した頃は、思い描いていた仕事と現実のギャップに戸惑いながらも、なんとなく過ごしていました。20代後半には、結婚をして子供が生まれ、仕事と育児の両立に奮闘していました。ですが、仕事では残業をすることが当たり前の時代であったため、子供を持つ私にとっては、保育園に通う子供の迎えで定時に帰らなければならぬという負い目や、子供の体調不良等で仕事を休まざるを得ない状況に悶々としていました。また、職場はまだまだ男性中心の社会で、男性職員は仕事にチャレンジする機会に恵まれ昇進していく一方で、女性職員はというと、頑張っているにも関わらずなかなか日の目をみない現実に何のために働くのか分からなくなっていました。そんなある日、職場で男女共同参画推進のためのヒアリング（面談）を行うという連絡

がありました。その対象者に私が入っており、面談を受けることになりました。その時に話を聞いてくれたのが産業カウンセラーでした。面談では、男女共同参画に関する質問もされましたが、私は仕事と育児が自分の思い通りにならない苛立ちや満たされない気持ちをいつの間にか話していました。話をしている間、カウンセラーの方は遮ることもなくずつと頷きながら聞いてくれました。そして、ある程度話を聞いたところで「岩見さんは、どうしたいですか」と質問され、思いがけない質問にはっとしました。ですが、当時の自分は「私は、〇〇したいと思っています。でも今の自分にはできない」と答え、できない理由をいろいろと説明していました。それでもカウンセラーの方は、アドバイスするでもなく否定するでもなく唯々聴いてくれました。面談は私が一方的に話して終わってしまった感じでしたが、それからというもの「自分はどうしたいのか、何だったらできるのか」自問自答するようになりました。それと同時に、人の話を聴くのが嫌いではなかった私は「産業カウンセラー」という資格に興味を湧き、

まずは資格をとってみようという思いになりました。

産業カウンセラーとして

産業カウンセラーの資格を取ることを決意した私は、主人に相談しました。すると「子供がまだ小さいし、母親が週末いないとかわいそうなのじゃないか」という答えが返ってきました。完全に否定する言葉ではありませんでしたが、暗にだめだと言っているのが分かりました。主人の協力がなしには通うことができなかったため、その時は見送ることにしました。

そして、下の子が小学校に上がるタイミングでなんとか理解が得られ、月曜日から金曜日は仕事と育児の両立、週末は講座（松戸教室）に通うという生活が始まりました。講座



は、久しぶりの学習であったことや職場では出会うことのできない方々と約6カ月間共にしたこと、多くのことを学び充実した日々を送ることができました。資格取得後は、職場で活かすことも考えましたが、活躍できるようなポジションがなかったため、まずはボランティアで経験を積もうと考え、電話相談を始めました。始めた頃は、養成講座で学んできたという自負もあり、うまく出来るのではないか思っていました。現実はいまいくつ時ばかりではなく、傾聴だけでいいのか、何が正しいのか、自分は役に立っているのかなど迷った時期もありました。ですが、同じ目的をもったボランティアの人達に支えられながら、もうすぐ10年になるうとしています。2年前からは、新たにSNS相談を担当するチャンスもいただき、相談者の気持ちを文字情報から理解する難しさやSNSならではの言葉の言い回しなどに苦戦しながらも日々自己研鑽しているところです。

キャリアコンサルタントとして

現在、私は産業カウンセラー協会の「キャリアコンサルタント養成講習」の講師をしています。キャリアコンサルタントとの出会いは、産業カウンセラー養成講座でお世話になった講師の方から勧められたのですが、今思うと、それがキャリアの世界に足を踏み入れることになったきっかけです。今でも覚えているのですが、キャリアコンサルタントの

講座の中で職務経歴書を作成する課題があったのですが、職場内の異動経歴はあったものの転職したことがなかった私は何を書いたらいいのか全く分からず、他の受講者のキャリアが輝いて見え羨ましいと思った記憶があります。とはいえ、資格取得後は、自分の職場に就職課があることを思い出し、上司に「資格を取得したので、就職課に異動させてほしい」と伝えました。すると、次の年に就職課に異動することができました。就職課では、学生との面談や説明会の企画などを担当してもらい、プレッシャーもありましたが充実した日々が続きました。

その後、職員の人材育成を担当する部署に異動し、職員研修、キャリア面談の企画・実施などを行い、やりがいを感じていました。その一方で、大学以外の経験がないことが頭から離れず、このままでいいのかという思いがさらに強くなりました。そんなとき、東関東支部から送られてきた「キャリアコンサルタント養成講習講師インテーン募集」のチラシが目にとまり、落ちる覚悟で応募しました。結果、キャリアインテーンの研修に参加できるチャンスを得ました。当時は、今の制度と異なり、全国のキャリアインテーンが集まって研修を行っていたため、関西、九州、沖縄の方とも知り合うことができました。インテーン研修後は演習講師になるための実技試験がありました。インテーンで一緒にあった仲間と勉強会を開くなどして切磋

琢磨しました。その甲斐もあって、試験に受かることができましたが、試験に合格した嬉しさと同時に大学以外の場で通用した達成感もありました。それから、演習講師としての道がスタートしたわけですが、講座でお世話になった講師の方と一緒に受講できることの喜びと様々なキャリアを持つ演習講師との出会いは今の自分の支えでもあります。そして、いろいろなご縁もあり、今年度から講師をすることになりました。

振り返ってみると

これまでの自分のキャリアを振り返ってみると、20代は仕事の理想と現実のギャップ、30代以降は仕事と育児の両立、産業カウンセラーとの出会い、ボランティア活動、演習講師などいくつもの転機がありました。これはキャリアで言う「発達課題」に当たるものでもありますが、それを知らず知らず乗り越えてきたんだと思います。そして、小さくとも一歩一歩前に踏み出してきたことが今の自分に繋がっていると思うと感慨深いものがあります。これまで、たくさんの人に出会い、いろいろなことを教えてもらいました。これも、産業カウンセラーに出会えたおかげだと思っています。

これからは、産業カウンセラー協会への恩返しと「私は、〇〇したいと思っている」の実現に向けてがんばって行きたいと思っています。